

1 環境教育に関する東京都教育委員会の取組

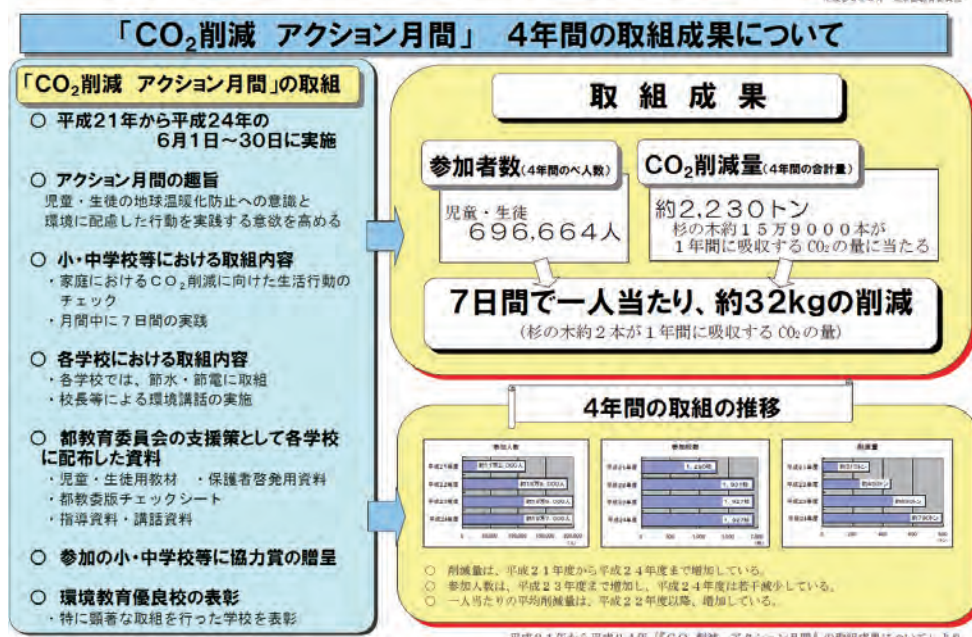
環境に関する学習内容は多岐にわたるものであり、学校教育においては、各教科や総合的な学習の時間など様々な学習の機会を通して、児童・生徒の実態や発達段階に応じ環境教育を計画的に実施し、環境保全への意識を育んでいくことが望まれます。

そこで、東京都教育委員会は、平成22年3月に、「環境教育カリキュラム」を作成し、環境教育が学校教育の中で意図的、計画的に実施され、全ての児童・生徒が環境について学ぶ機会を得られるよう、関連する教科等の学習内容を整理するとともに、環境教育へ導くための具体的な指導方法を示しました。それ以降、東京都教育委員会では、以下のような取組を通して、環境教育の充実に努めています。

【東京都教育委員会が実施した環境教育に関する主な取組】

年度	主な取組
平成21年度	「環境教育カリキュラム」の開発・配布
平成21・22年度	「環境教育フォーラム」の開催
平成21～23年度	「環境啓発リーフレット」の作成・配布
平成21～24年度	「CO ₂ 削減 アクション月間」の実施
平成22・23年度	「環境教育実践推進校事業」の実施
平成25～29年度	「くらしと環境 学習Web」の充実
平成27年度～	オリンピック・パラリンピック教育における アワード校「環境部門」の取組
平成29・30年度	「環境教育掲示用教材」の作成・配布
平成30年度	「環境教育の現状と課題を把握するための調査」の実施（抽出）
令和元年度	「環境教育フォーラム」の開催

例) CO₂削減 アクション月間



例) 平成30年度作成 環境教育掲示用教材 (海ごみ問題 小学校高学年版)

環境を学ぼう
今、私たちが住む地球には、いろいろな環境問題が起きています。環境問題について調べて、自分でできることを実行しましょう。

私たちの海が危ない! 国境をこえる海ごみ

国境をこえる海ごみ
いま世界の海で、私たちの暮らしなどから海に流れ出る海ごみが大きな問題になっています。海ごみは、大きく分けると以下の3つの種類に分けられます。

- 漂着ごみ
- 海面ごみ
- 海底ごみ

南太平洋の無人島にも日本のごみが流れ着いています
世界のどの陸地からも遠くはなれた南太平洋の無人島に、世界中からごみが流れ着いています。イギリスの海外領土である世界遺産、ヘンダーソン島の白い砂浜にあふれる大量のごみ。これは日本だけではなく、ロシア、アメリカ、ヨーロッパ、南米、中国などから流れ着いたものです。特に日本のごみは、日本近海の海流から、さらに太平洋をめぐり大きな海流へへごみは遠くをこえて漂流し、1万キロも離れた南半球の島まで運ばれてきたのです。

海ごみを減らす活動が、世界中で行われています
海ごみは、日本だけでなく、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど、世界中で問題になっています。そのため多くの国で、海ごみの調査をしたり、海ごみを減らす活動が行われていたりしています。東京都では、東京の小学生と、アメリカのニューヨークの小学生が、海につながる川のごみや、海ごみについて調べ、インターネットを通じて、海ごみの問題を一緒に考え、発表しました。

江戸時代の知恵…ふろしきは万能グッズ
物をむだにせず最後まで使いきるのが当たり前の江戸時代。ふろしきは、つむぎ(袋)、運ぶ(バッグ)、結ぶ(ロープ)ができる万能グッズでした。

生き物がプラスチックをエサとまちがえて飲みこんでいます
海ごみの大半をしめるプラスチックは、自然にはほとんど分解されず、長い間、海をたどっています。たくさん海の生き物が、プラスチックをエサとまちがえ、飲みこんでいます。

日本の近海にある4つの海流
日本の近海には4つの海流があります。特に黒潮は、最大で毎時7~9キロの速さで流れることがあり、太平洋側の海岸にあるごみを遠くまで運んでしまいます。同じように、中国や韓国など日本の周辺部のごみも海流にのり、日本近海の海岸などに流れ着いています。

海を守るために自分にできることを考えてみよう

ワークシート

教師用指導資料

小学校 高学年版

環境問題について調べて、自分でできることを実行しよう。
私たちの海が危ない! 国境をこえる海ごみ

年 組 名 前 _____

1 海ごみはどのように国境をこえるのだろう?

2 海ごみが生物にあたる影響や、海ごみを減らす世界の活動について調べてみよう。

3 自分にできる取組を考えよう。

小学校 高学年版

環境教育掲示用教材 指導資料

環境教育掲示用教材は、児童・生徒に地球環境保全に関する必要な知識を与えるとともに、3Rをはじめとする地球環境に配慮した行動の大切さを理解させ、その実践を促すことを目的として作成した教材です。本指導資料では、学校の授業等で活用できるよう、環境教育掲示用教材を活用した活用例等を紹介します。

環境教育掲示用教材の活用例

環境問題について調べて、自分でできることを実行しよう。
私たちの海が危ない! 国境をこえる海ごみ

環境学習の視点 自分たちの日々の生活や行動が地球環境保全につながることに理解し、環境に配慮した生活を心掛けていこうとする態度を育てる。

ねらい 海ごみが国境を越えた環境問題になっていることを理解するとともに、海の環境や生き物を守るために、自分にできる取組を考え、実践する。

活動内容 (○主な活動)	教師の支援 (△留意点)	◆掲示用教材等との関連
○掲示用教材①を見て、海ごみの種類について知る。 海の環境や生き物を守るために、自分にできる取組を考えよう。	○写真を基に、海ごみは漂流ごみ、海面ごみ、海底ごみに分けられることを伝える。	◆掲示用教材①
○掲示用教材②③④⑤を基に、海ごみがどのように問題を起こしているかについて、個人やグループで調べるとともに、学級全体で話し合う。	○イラストやグラフ等を基に、海外から日本に流れ着くごみや、日本から出たごみが海外にたどり着く可能性があることを理解させる。	◆掲示用教材②③④⑤ ◆ワークシート①
○掲示用教材⑥⑦を参考に、海ごみが生物に与える影響や、海ごみを減らす世界の活動などについて考える。	○写真を基に、海ごみの大半をしめるプラスチックは自然には分解されず、海の生物の害を及ぼしていることを理解させる。 ○写真を参考に、東京とニューヨークの小学生が行った海ごみについての環境学習の取組について伝える。 ○イラストを参考に、物を大切にしている江戸時代の知恵について伝える。	◆掲示用教材⑥ ◆ワークシート② ◆掲示用教材⑦
○掲示用教材⑧を参考に、自分にできることを考える。 ○製したごみや感想を発表する。	○イラストを参考に、自分にできる取組について考えさせる。 ○児童一人一人が地球環境保全につながる生活の必要性に気付くよう、活動を振り返らせる。	◆掲示用教材⑧ ◆ワークシート③

東京都教育委員会